

アフリカの現地資料事情

－ カメルーン , ケニア , タンザニアの統計機関・学術研究機関 －

岸真由美

2007年1月に資料収集と資料事情の調査を目的として、カメルーン、ケニア、タンザニアの統計機関や学術研究機関、図書館などを訪問する機会を得た。本稿では、訪問したアフリカ3カ国の機関を中心に資料事情について報告する。

は、世帯、インフォーマルセクター、貧困などに関する統計データおよび電子資料が入手できるようになっている。今後、統計データを各省庁から集約して統計研究所で一括管理するような体制をつくる予定である。

1. 統計機関・行政機関

(1) カメルーン国立統計研究所

カメルーン国立統計研究所(Institut National de la Statistique du Cameroun)は、2001年に独立採算制を取る行政的公施設法人として設立された。これ以前は、統計機関として経済財務省に統計・国民経済計算局が置かれていたが、社会人口統計データの収集・刊行の機能強化のため、同局が廃止されて統計研究所が新たに設立されることとなった。紙メディアによる従来の出版形態に加え、電子メディア(PDFやCD-ROMなど)による出版も進めており、2008年12月現在、同研究所のウェブサイト(<http://www.statistics-cameroon.org/>)から

(2) ケニア国立統計局

ケニア国立統計局(Kenya National Bureau of Statistics)は、筆者の訪問時は中央統計局(Central Bureau of Statistics)という名称だったが、その後2007年2月にケニア国立統計局に変わった。同統計局は、政策立案に資する社会経済統計データの収集・分析・出版などを行っている。

同統計局には付属図書室があり、これまで刊行された統計資料の閲覧ができ、資料の購入も可能である。各省がそれぞれ出版している統計資料の収集も可能な限り行っているとのことであった。統計局の図書館員によると、この図書室はナイロビでは唯一の統計に特化した専門図書館である。国立図書館や公共図書館は一般利用者向けの本が

多く学術書が少ないそうだ。統計図書館として利用者サービスの充実を図るべく、目下、世界銀行の援助を得て図書館の拡張・整備を進めている最中である。

(3) タンザニア国立統計局

タンザニア国立統計局(National Bureau of Statistics)は、公式統計を提供する行政エージェンシーである。効率的な統計サービスの提供を目的として、民間経営手法も取り入れている。

今回訪問した3カ国の統計機関はいずれも、各省庁に統計データが分散してアクセスしづらい点の改善を今後の課題として指摘していた。この点から言えば、タンザニア国立統計局は、他の2カ国と比べると、政府省庁からのデータ集約と収集データのデータベース化が比較的進んでいる。統計局は社会経済統計のデータベース「社会経済データベースTSED」(Tanzania Socio-economic Database)を開発し、オンライン公開している。データを参照するには同統計局のウェブサイト(<http://www.nbs.go.tz/Tsed/>)から専用プログラム(無料)をダウンロードする必要がある。

同統計局にも付属図書室があり、JICAの援助で図書室を整備中である。統計局が出版した統計資料に加え、内外の図書や雑誌も購入や寄贈で入手し、国・地域別に分類、書架に並べている。パソコン端末を数台設置しており、統計データベースなどを利用できる。

(4) タンザニア企画経済エンパワーメント省

企画経済エンパワーメント省(Ministry of Planning & Economic Empowerment)は、2008年2月の首相辞任と内閣再編で財務省と統合され財務企画省(Ministry of Finance and Planning)に名称が変わり、その後さらに変わって、現在は財務経済

省(Ministry of Finance and Economic Affairs)である。同省の重要な出版物としては『経済白書』(*Economic Survey*)がある。タンザニアの経済統計としては最もデータと記述がまとまった資料である。

同省には付属図書室があり、ライブラリアンを配置している。出版物はいずれも無料で、入手したい資料があればライブラリアンが手配してくれる。出版物や所蔵資料の目録はデータベース化されているが、オンライン化はまだである。それでも、他の省に比べるとIT技術の導入が進んでいるということである。

2. 学術研究機関

(1) ヤウンデ第一大学

ヤウンデ第一大学(Université de Yaoundé I)は首都ヤウンデにあるカメルーンでトップの国立大学である。人文社会科学部、医療・生物医科学部、自然科学部の3学部と、国立高等理工科学学校(Ecole Nationale Supérieure Polytechnique)、高等師範学校(Ecole Normale Supérieure)、高等師範学校バンピリ校(Ecole Normale Supérieure Annexe de Bambili)の三つからなる。

今回訪問した人文社会科学部の地理学科と社会学・人類学科はそれぞれが学術雑誌を出版している。学術誌名は、地理学科が『カメルーン地理学誌』(*Revue de géographie du Cameroun*)、社会学・人類学科が『カメルーン社会学・人類学誌』(*Revue camerounaise de sociologie et anthropologie*)である。学術図書については、大学出版局をはじめ、Editions CléやAfréditなどの現地の出版社から多く出版されている。定期刊行物については、近年は予算不足で出版自体が遅れがちである。このため、海外研究機関との共同研究の成果を、双

方で費用を負担して出版する試みも行われている。

(2) ヤウンデ第二大学

ヤウンデ第二大学(Université de Yaoundé II)はカメルーンにある六つの国立大学の一つである。ヤウンデ第一大学と第二大学はもともと一つの大学だったが、1993年の大学改革で分割され、経済学系の学部はヤウンデ第二大学に移された。大学は法学政治学部、経済経営学部の2学部と、高等情報通信技術学校(Ecole Supérieure des Sciences et Techniques de l'Information et de la Communication: ESSTIC)、カメルーン国際関係研究所(Institut des Relations Internationales du Cameroun: IRIC)からなる。また、次項で述べる人口統計調査研修所と連携して、1993年から人口統計学の修士課程および博士課程を開設している。

学術雑誌、紀要などについては、今回訪問した経済経営学部が年2回発行する『アフリカ経済学・経営学誌』(*Revue africaine des sciences économiques et de gestion*)をはじめ、計7誌が刊行されている。とはいえ、中には現在休刊状態になっているものもある。

(3) 人口統計調査研修所

人口統計調査研修所(Institut de Formation et de Recherches Démographiques: IFORD)は、カメルーンの首都ヤウンデにある、人口問題・人口統計学に関する調査研究と教育を行う国際学術研究機関である。1971年に国連とカメルーン政府との協定によって設立され、仏語圏アフリカ諸国が会員となっている。ちなみに、英語圏アフリカで人口問題・人口統計学に特化した国際研究機関には、ガーナの人口調査地域研究所(Regional Institute for Population Studies)がある。

IFORDはヤウンデ第二大学と連携して修士課程および博士課程のプログラムを提供しており、会員であるアフリカ諸国から学生を受け入れている。研修所は図書室を備えており、蔵書は図書資料を中心に1万5000タイトルである。この図書室には、IFORDで学位を取得した者、および、IFORDで修士課程修了後に他機関で博士号を取得した者の学位論文も収集、保存されている。研修所の出版物に関しては、かつては『人口統計調査研修所研究手帖』(*Les cahiers de l'IFORD*)、『人口統計調査研修所紀要』(*Les annales de l'IFORD*)などの定期刊行物を出版していた。しかし、2002年以降は予算不足から出版物を全く出していない。

(4) ダルエスサラーム大学

ダルエスサラーム大学(University of Dar es Salaam)は1970年に設立されたタンザニア屈指の公立大学である。同国の大学では最も古い歴史を持ち、そもそもは1961年にロンドン大学の提携カレッジとして設立された歴史を持つ。各学部や研究所などの紀要や学術雑誌としては、『アフリカン・レビュー誌』(*African Review Journal*)、『開発研究誌』(*Development Studies Journal*)、『タンザニア経済動向誌』(*Tanzania Economic Trends Journal*)、『ダルエスサラーム大学図書館誌』(*University of Dar es Salaam Library Journal*)など18誌が出版されている。

近年、研究出版局(Directorate of Research and Publication)が新たに設置され、学内で行われる研究活動の支援と調整を行っている。また、各学部や研究所の出版物、とくに、学術雑誌などの定期刊行物を含めた研究成果の広報も担っている。

3. 図書館

(1) ヤウンデ第一大学中央図書館

ヤウンデ第一大学中央図書館は4階建てのガラス張りの建物で、座席数は約980席ある。資料収集については、購入によるほか他機関からの寄贈も重要な手段である。寄贈本の場合、自館では受け入れ対象としない資料が届くこともある。こうした「不要本」は、予め登録されている機関の中からその資料を必要とするところに再寄贈する。

目録情報のデータベース化については、数年前にシステムを導入してデータ入力中であるが、今のところは目録カードも作成し併用している。雑誌記事索引も作成しており、書誌を商業データベースから流用した上で、キーワードの付与のみ自館で行っている。書架は閉架式である。図書は階ごとに分野を分けて配置されている。以前は開架式だったそうだが、図書の不正持ち出しが多いため現在の閉架式に変更した。同図書館でも学位論文の保存を行っている。また、索引作成も行っており、作成したデータはアフリカ大学協会(Association of African Universities)が提供する「アフリカ学位論文データベースDATAD」(Database of African Theses and Dissertations)に登録することで他の学術機関と情報を共有している。

(2) ダルエスサラーム大学中央図書館

ダルエスサラーム大学中央図書館の蔵書数は40万タイトルに及ぶ。このうち紙媒体の雑誌は2800タイトルである。電子ジャーナルと約370タ

イトルの電子ブックも購読している。また、OPAC(<http://www.libis.udsm.ac.tz/opac>)を公開し、利用者に対して新着資料案内や選択の情報提供サービス(SDI)^{†1}を提供するなど、最新の図書館情報発信サービスを積極的に取り入れている。

コレクションとしては、植民地時代から現代までの公文書や新聞などを集めた東アフリカ・コレクションが充実している。これらの貴重資料の電子化も考えてはいるが、今のところ予算の目処が立っていない。他の国の大学図書館同様、学位論文の収集も積極的に行っている。現在、収集した学位論文の索引と要約をデータベース化して公開する準備作業を進めている。

ライブラリアンの多くは、交換留学などの形でイギリスやドイツ、アメリカなどの大学で図書館情報学を学び、図書館情報学の修士号や博士号を取得している。タンザニアでは、かつてはライブラリアンを隣国ウガンダのマケレレ大学への留学プログラムで養成していた。しかし、今や自国のダルエスサラーム大学で養成できるようになっている。

おわりに

アフリカの現地出版物の数は年々増えているが、出版情報をつかんで現物を手に入れるのはまだまだ容易ではない。調査では、大学出版局をはじめ、これまで知らなかった学術出版社などを把握することができた。問題はここから資料収集にどうつなげるかである。

世界的には出版形態や流通方法の多様化が進んでおり、学術出版物などを刊行するアフリカの現地出版社でも販路を広げるべく努力している。たとえば、ケニアのナイロビ大学とタンザニアのダルエスサラーム大学はそれぞれ大学出版局を持つ

†1 SDI(Selective Dissemination of Information)は、利用者がキーワードを登録すると、その条件に合致する情報を定期的にメールなどで提供するサービス。

ており、どちらもイギリスのオックスフォードにある African Books Collective 社(ABC)を販売代理店として利用している。ABCは複数の出版社が共同で立ち上げた、アフリカの現地出版物を扱う非営利目的の組織である。ナイロビ大学出版局のようにウェブサイト(<http://www.uonbi.ac.ke/press/>)でカタログ閲覧と注文が可能なところも登場してきている。

しかし、カメルーンのように、国立大学が大学出版局を持っていても出版情報が日本からは入手

しにくい場合もある。機関同士が協定を結んで出版物を交換する方法は、アフリカと日本の場合、出版物の定価より送料の方が高くなるためアフリカの現地機関からは敬遠されがちである。収集する側も、共同研究や共同出版による現地研究成果の入手、現地書店との提携、出版社からの直接購入、国内機関同士が提携しての収集分担など、さまざまな収集方法を開拓していく必要がある。

(きし・まゆみ / アジア経済研究所図書館)